

元FBI特別捜査官テッド・ガンダーソン氏講演

The Great Conspiracy 壮大なる陰謀

出典 <https://www.youtube.com/watch?v=q4qWYv67XA4>

2011年8月17日

0:00~

まず始めにはっきりさせておきたいと思いますが、私は反政府主義者ではありません、テロ信奉者でもありません。そして特にはっきりさせておきたいのは、FBI や CIA、米国海軍情報部、陸軍情報部、軍事情報部、NSA といった組織に属する人たちの中にも、良い人はたくさんいるということです。

しかし、あいにく、今アメリカで何が起きているかについて切り込んで、大きな変化をもたらした重鎮は、ごく少数です。私個人のこれまでの経歴を述べると、私は1979年3月にFBIを退任しました。当時、私はFBI ロサンジェルス支局に所属し、700名以上の部下を率いていました。FBI 退任後、連邦司法長官のグリフィン・ベル (Griffin Bell) 氏が私にパンアメリカン競技大会の警備を統括しないかと申し出ました。私はこの申し出を受けました。1984年ロサンジェルスオリンピックでは、私はコンサルタントを務めました。カリフォルニア麻薬取締局で元カリフォルニア州知事だったジェリー・ブラウン (Jerry Brown) 氏のコンサルタントも務めました。このように、私は多くの要人と面識や実績がありません。

では私が知っている大きな真実について述べていこうと思います。どうか私の話すことを信じていただきたいと思います。インターネットの記事を読んだ人はそうは思わないかもしれないからです。なぜなら、今すぐそこにいる、FBI の酷使に耐えている情報提供者であるシチュー・ウェブ (Stew Webb) 氏やバーバラ・ハートウェル (Barbara Hartwell) 氏は、MK ウルトラマインドコントロールの被害者であり、CIA のマインドコントロールの被害者でもあります、そのため私に関するあらゆる類いの誹謗中傷を行っているからです。しかし私はこれについて言及したくありません。なぜなら、彼らの記事を読めば、今アメリカで、そして事実世界中で何が起きているかを明るみに出すために最善の努力を行っている私のような人物や、州上院議員のジョン・デキャンプ (John DeCamp)

氏をはじめとする指導者らの信頼を失墜させようとしている記事であることを、皆さんもお分かりになるはずだからです。

2:04~

1776年まで遡ってみましょう。5月1日へ。アダム・ワイスハウプト (Adam Weishaupt) はロスチャイルド家から世界を支配するためのゴールを設定し、単一世界政府を支配するように、という命を受けました。ワイスハウプトは25のゴールを上げました。その中には、報道機関を支配し、若者たちを性とドラッグで荒廃させ、イルミナティ (Illuminati) と呼ばれる自分達の人々を自分達で選択して市区町村、州、連邦のあらゆる政府機関の要職に就かせる、といったものもあり、いまなお続いています。最終ゴールは、単一世界政府を樹立して世界を手中に収めることでした。情報は非常に良く文書化されていますが、ワイスハウプトの雑誌にカール (Carr) の名前は出てきていません。ワイスハウプトの書籍、すみません、『Pawns in the Game (ゲームの歩兵)』です。

3:10~

私は引退したころ、何が起こっていたのか全く知りませんでした。イルミナティについても、アダム・ワイスハウプトについても。私がプエルトリコから戻って来てから最初の大きな調査は、ジェフリー R. マクドナルド (Jeffrey R. MacDonald) 医師の事件でした。博士は元グリーンベレーで、1970年2月17日にフォートブラッグで妻と2人の子供を殺害した罪で起訴され、その後裁判で有罪判決を受け、3回連続の終身刑を言い渡されました。

私の弁護団はマクドナルド医師は無罪だと主張して、私にこの事件を調査するよう依頼しました。私は調査すると回答しましたが、もし医師が妻と2人の子供を殺害したことが分かったら調査を打ち切って、それ以上関与しないつもりでした。しかし私は今なおマクドナルド医師のために調査を継続していることを、ここに申し上げます。医師は無実です。

4:17~

この事件を担当してから、私はすべての書類に目を通しました。そこで分かったことは、証拠が無くなっていること、盗まれていたこと、改ざんされていたこと、そしてFBI捜査官ポール・ストムボーが大陪審の面前で嘘をついたことでした。中でも最も重要なことは、妻のコレットの爪の間には犯人と争った際の皮膚が付着していたことです。この皮膚は陸軍の調査主任ウィリアム F. アイボリー (William F. Ivory) に手渡された後に無くなっています。

調査開始から10ヵ月経過した1980年10月25日、様々な状況を調査した後、調査の詳細はここでは割愛しますが、ヘレナ・ストックリー(Helena Stoeckley)氏の署名入りの供述書を入手しました。私は3度事情聴取を行い、この聴取はそれぞれ10日間、合計で30日に及びました。ヘレナは、マクドナルド医師は罪を犯していない、罪を犯したのはヘレナが所属する悪魔のカルト集団だと私に話しました。私はその時、「そういうことだったのか。私は悪魔崇拝について何も知らない」と思いました。聖書で悪魔主義について読んだことはもちろんありましたが、それだけでした。しかし調査を進めていくうち、東南アジア産の薬物がプラスチックの袋に入れられて合衆国の複数の軍事基地に空輸され、死亡したアメリカ兵の体内から検出されたことを知りました。

5:51~

ヘレナからの情報でさらにわかったことは、こうした薬物が東海岸沿いに広まった件にもヘレナの悪魔崇拝カルト集団が加担していたということです。マクドナルド医師はカルトとメンバー、死亡したアメリカ兵を侮辱したため、カルト集団の怒りを買いました。何らかの救済を得るために裏活動していた、あの死亡したアメリカ兵は市民病院に入院していましたが、あの夜、カルト集団から襲撃されました。この犯罪には合計7人が関与していました。ヘレナは全員の名前を私に教えてくれました。今、そのうちの何人かが住んでいる場所を私は知っています。しかし、もっとよく調査するために、私はUCLAの図書館に行きました。そこで私が発見した事実は、1973年1月1日発刊のタイム誌に、死亡したアメリカ兵の体内からプラスチック袋に入った薬物に関する記事が掲載されていたことでした。ヘレナが本当のことを話してくれたことに、私は全く疑いの念を持ちませんでした。私が行ったうそ発見器で彼女は白でした。私が委託した精神科医の診断でも彼女は正常でした。実のところ私がこの事件の調査を開始する前に、すでに政府は調査の初期段階でうそ発見器での試験を実施済みでした。陸軍のうそ発見器テストの調査官であるブリセンティン(Brisentine)氏は、ヘレナが話していることは真実だと思う、ヘレナはあの夜現場にいたと思う、と話しました。

7:12~

マクドナルド事件の一連の出来事のうち最近の出来事について少しお話しします。というのも、最近の出来事によって何が起こったかがわかったからです。それは私の調査開始後に起こったもので、イルミナティが何者であるかが分かったことです。イルミナティか悪魔崇拝か、あるいはイルミナティすなわち悪魔か、ということについてです。まず私が事件の経緯についての新事実を把握していっ

た中、最近になって知った事として、マクドナルド医師は25年～26年間も刑務所に入れられていましたが、ちょうど2日前に仮釈放委員会の前に姿を現わしたということでした。医師が仮釈放委員会の前に姿を現すのは初めてのことで、それまでにはなかったことでした。その理由は、医師の意見によると、罪を認めることになるからだということでした。この特別な機会においても、医師は依然として無罪を主張していましたが、それでも仮釈放委員会の前に現れたのは、最近結婚したばかりの人物とキャシーという名前の女性が（間）そして、もちろん、ここ2日間の新聞報道のとおり、医師の仮釈放は認められず、仮釈放委員会の次の審問が認められるのは15年後だと決定しました。この気の毒な男は妻と2人の子供を失っただけでなく、25年間も刑務所に入れられ、そして、これから15年間もそうなるのです。医師は今61歳です。

8:41~

私は今もこの事件を調査しています。最新の展開についてお話しします。1997年、連邦判事はDNA鑑定の実施を認めました。この鑑定では調査対象として15個の証拠が選定されました。ただし判事は、証拠の封筒を開く際は検察官だけが立ち会うことができると述べたのです。

そこで、彼らが、つまり検察官らが証拠の封筒を開けました。皆さんはいくつの封筒が空だったと思いますか？5つです。5つの証拠の封筒が空でした。コレットの指の爪の間の皮膚だけでもマクドナルド医師の無罪を証明することができたかもしれません。現在あるのは1997年に承認されたDNAです。今は2005年です。DNA鑑定はまだ完了してなどいません。

9:40~

マクドナルド事件の次に私が担当した大きい事件は、カリフォルニア州マンハッタンビーチにあるマクマーティン保育園での事件でした。この保育園に通っていた子供たちが言うには、この保育園の地下にはいくつかトンネルがあって、子供たちはそのトンネルに連れて行かれ、トンネルの中から3重のドアの中にあるトイレの跳ね上げ戸に入っていくと、車が置かれていて、そこで売春が行われていたということです。こう話すのは、幼稚園に入園する前の2歳、3歳そして4歳の子供たちです。

10:21~

さらに、こうした子供たちの話では、飛行機に乗せられて山岳地帯に連れて行かれたこともあったそうです。そこでは、ローブ、黒いローブを身につけ、声を合

わせて何かを唱え、ろうそくを持った大人がいたそうです。そして、茶色の赤ん坊たちのことも話してくれました。その赤ん坊たちは生け贄、(間)、切り刻まれていたとのことですので、本当に生け贄にされていたのです。調べが進むにつれ、捜査の進展もあり、悪魔の儀式であることが明らかとなりました。保育園を所有していたマクマーティン (McMartin) 家は裁判にかけられました。レイ・バッキー (Ray Buckey) と彼の祖母です。祖母は無罪放免にされました。レイ・バッキーに対しては、陪審は評決に達しませんでした。2度目の裁判でも評決に達しませんでした。

11:03~

私は1990年にこの保育園に関与することができる機会を得ました。現在この保育園は被告側代理弁護士であるダニー・デビス (Danny Davis) 氏の手にあります。蛇足ですがデビス氏はこの事件で1,500万ドルの報酬を得ていたにもかかわらず保育園を売却しました。売却先は請負業者で、この業者は保育園を解体しました。この情報を得て、私はその請負業者に接触しました。そして私は、「あの保育園に行って、トンネルを調べさせてもらいたいのですが」と申し出ました。捜査当局が1987年に調べたところ、トンネルを発見することはできなかったとされていました。私は数名の親御さんたちとともに、考古学者であるUCLAで教鞭を執っているゲーリー・スティッケル (Gary Stickel) 博士を招聘しました。博士は自ら作業員を起用し、34日後にスティッケル博士が述べたのは、あの保育園の地下にトンネルはあった、しかし隠蔽され、埋められた、ということでした。

カリフォルニア州クレストラインにある山岳地帯の上に廃墟となった悪魔崇拝の場所を示す情報を私は持っています。山に登って問題の場所のコピーや写真コピーを入手し、写真を撮ってきました。ガンダーソン年代記第2号 (Gunderson Chronicles Number Two) と呼ばれる、これらの写真をどこで入手できるかについての講義を行ったことがあります。何年も前にカンザスシティで4時間講義しました。その中で、この廃墟となった場所を示したとともに、マクマーティン保育園のトンネル掘削の写真も提示しました。

12:49~

その後、私が担当した別の事件は、とても恐ろしい事件でした。というのは、私はネブラスカ州の元州上院議員のジョン・デキャンプ氏をはじめとする人々の協力を得ながら、この国では現在、主として米国軍事諜報機関が主導する秘密の軍事犯罪企業や政府企業が存在することを突き止めたからです。これらの企業

はフル稼働しています。そして誰もが調査することを拒んでいます。

ネブラスカ州での、この事件は「フランクリン隠蔽事件 (Franklin Cover-up)」と呼ばれています。蛇足ですが、これは私が、(間)、ジョン・デキャンプ氏が執筆した書籍です。ここに事件に関することがすべて書かれています。この数奇な事件では、児童養護施設や孤児院、児童自立支援施設などにいた子供たちは連れ去られ、ネブラスカ州オマハからアイオワ州スーシティまで 184 マイルも車で走行させられた後、プライベートジェットに乗せられてワシントンDCまで飛び、連邦議会議員や上院議員、ホワイトハウスの職員といった著名な人々とのみだらな行為に巻き込まれていたのです。克明に文書に記録してあります。私はポール・ボナッチ (Paul Bonacci) 氏と個人的に話しをしたことがあります。5 時間に及ぶインタビューを行い、その時のテープもあります。今は持ってきていませんが、注文してご購入できます。1993 年にポール氏が語ってくれた 5 時間のインタビュー記録です。

14:27~

ポールは自分がどのように利用されたかについて語ってくれました。また、誘拐グループのメンバーだったことや、おとりとして利用されたことも。そして、彼が 10 歳から 12 歳だった頃には公園やショッピングセンターで子供たちを誘い出し、近くの車の中で待っている大人に引き渡していたことについても語ってくれました。誘拐グループは子供たちを後部座席に投げ込んで、クロロホルムで気絶させ、大人からお金をもらってから連れ去りました。さらにポールが語るには、こうした子供たちの多くは性の奴隷となり、「おもちゃ」と呼ばれます。大人たちはこうした男の子たちを「おもちゃ」と呼ぶのです。女の子たちのことをどう呼ぶかは知りません。ともかく、こうした墮落した、病的な男たちは、何かの理由があつてか、年端のいかない男の子の方に女の子よりも興味があるのです。これについてもすべて克明に文書に記録してあります。

15:15~

ポールはホワイトハウスの居住地区内部を図に描きました。この情報は 1987 年頃に明るみに出ました。当時は私が、この事件に関与する少し前でした。私はネブラスカ州上院委員会の調査官だったゲリー・カラドリ (Gary Caradori) 氏の後任でした。ゲリーは誘拐グループから離脱した元メンバーである公式のカメラマンに会い、カメラマンがゲリーに与えた写真を撮ることに同意し、その後シカゴで会い、上院委員会に写真を返還することに同意しました。このカメラマンは自分のプライベート飛行機でシカゴを発ちましたが、その直後に、シカゴから

の離陸後すぐに空中で飛行機爆発を起こしました。彼のブリーフケースは見つかりませんでした。彼と11歳になる彼の息子は死亡しました。ブリーフケースは見つかることはありませんでした。この飛行機の後部座席は一切発見されませんでした。私は、爆発につながった化学薬品や、特に後部座席を調べようと、この飛行機を調査できるよう可能な限り、あらゆる手を尽くしました。でももう入手することは不可能です。何が起こったのか誰も真実を知りません。ゲリー・カラドリの亡骸は、民間人であったにもかかわらず、調査を理由に軍事基地に送られました。

16:49~

現場に最初に到着したのは副保安官でした。彼は写真を見ました。彼は写真の収集を始めました。FBI捜査官が一人で到着すると、副保安官から写真を取り上げ、このことは黙っているようにと言いました。副保安官は2~3人の人達にこのことを話しました。その1年後、彼の妻は殺害されました。現在、副保安官はもうこの話をしなくなりました。

この国際的児童誘拐の連鎖、これは後で知ったことには、ワシントンDCが発端となっていたのです。この組織は非常に行動が速いため「ファインダー」と呼ばれています。私はファインダーに関する報告書をすぐそこに保管しています。ご参考までに、私が皆さんに話していることはすべて文書に記録してあります。

17:34~

ファインダーは1960年代に結成され、活動を開始し、現在に至っています。存在が明るみに出たのは1987年のことでした。その後、拠点をカンザス州ウィチタに移し、今なおカンザス州ウィチタで活動しています。私はこれまで何度もFBIに自分の報告書を提出し、調査開始を依頼していますが、未だに何ら返答を受けていません。

私が今話していることを記載した『The Finders (ザ・ファインダース)』と『Franklin Cover-up (フランクリン隠蔽事件)』が手元にあります。『Pawns in the Game (ゲームの歩兵)』も手元にあります。『ゲームの歩兵』は、(間)、今日の本邦におけるイルミナティ、つまり悪魔崇拝の活動に関する書籍です。そして最後にご紹介する書籍は、『Why Johnny Can't Come Home (なぜジョニーは家に帰ることができなかったのか)』です。

18:29~

ジョニー・ゴッシュ (Johnny Gosch) は1982年9月5日、アイオワ州ウエストデモインでサンデー版の新聞を配達するはずでした。でも彼は一部も新聞を配達しませんでした。彼は消えたのです。母親のノーリーン・ゴッシュ (Noreen Gosch) は呆然として、何が起こったのか理解できませんでした。その後FBIとウエストデモイン警察に調査を依頼しました。ウエストデモイン警察の署長は母のノーリーンに向かって、「彼はいなくなりましたが、捉えられて車に押し込まれたり、拘束されたりするところを誰も見た者がいないので、調査は行われたい」と言いました。FBIの仮定も同じでした。警察もFBIも調査することを拒んだのです。

私はFBIで誘拐事件を担当してきました。そこで私が申し上げることができるのは、捜査するのは24時間以内の間だけです、それを過ぎると、自動的に、捜査は打ち切られます。これは1950年代、60年代、70年代で続いていたやり方です。行方がわからなくなってから24時間以内しか捜査は行われません。今日私はここに立ち、皆さんはそちらに座っていますが、こうしているうちにも、この国では1時間に83人のペースで子供たちが姿を消しているのです。

20:06~

行方がわからなくなる子供たちの数は年間で70万人を超えます。リーダーズダイジェスト誌は1982年7月、行方不明の子供の数は毎年10万人だと伝えています。別の興味深い統計も見つけました。この国で誘拐されてから殺される子供の数はおよそ2,500人とされています。信じられない数です。しかしFBIは捜査を拒んでいます。ネブラスカ事件の発生後、ごく最近になって私たちはジェフ・ギャノン (Jeff Gannon) という一人の若い男性を見つけました。彼は偽装した報道陣用のIDを使ってホワイトハウスに現れました。これは先月起こった出来事です。

21:08~

ホワイトハウスの職員の中で、この男に疑いを持ち、怪しむ人が数人出始めました。というのも、ブッシュ大統領との記者会見が始まると、この男は大統領にソフトクエスチョンをしたからです。ソフトクエスチョンというのは、大統領の印象が良くなるよう、あらかじめ答えを用意していることを質問するものです。職員はこの男の経歴チェックに着手しました。すると、この人物の本当の名前がジム・ガッカー (Jim Guckert) であることが分かりました。インターネットでよく知られた人物です。ガッカーはホモセクシュアルのウェブサイトを開設していたからです。そう、ジェフ・ギャノンはジム・ガッカーの偽名です。彼

の写真がインターネットに出ていましたが、彼は1982年9月5日に誘拐されたジョニー・ゴッシュだと考えられています。

22:13~

母親のノーリーン・ゴッシュはこちらの本、『Why Jonny Can't Come Home (なぜジョニーは家に帰ることができなかったのか)』を執筆しました。私は彼女に2時間インタビューし、ビデオを撮っています。先程と同じく、このビデオも注文できます。彼女は未だにあきらめることができないままでした。ノーリーン・ゴッシュがした事を、1時間当たり83人姿を消す子供たちの母親たちも同じようにすれば、こうした事件は今日、発生していないのです。ノーリーンはFBIを訪れ、捜査を依頼しました。FBIは捜査を行うことを拒み、警察もそれを拒みました。なぜなら、この事件はフランクリン隠蔽事件とつながっていたからです。

誘拐された子供たちの証言によって、この国の著名な政治家や一流のビジネスマン、そして出版社オマハワールドヘラルドのかつての所有者ハロルド・アンダーセン (Harold Andersen) も身元が判明しました。ネブラスカ森林局の局長も子供たちの証言によって身元が割れました。ネブラスカ事件では80人の子供たちが名乗り出ました。それによって、申し上げたとおりのホワイトハウスにつながっていることが判明したのです。ポール・ボナッチは1987年、「おもちゃ」を、つまり年端もいかない男の子たちや、少年たちを、ホワイトハウスの中にいる、ある種変質的な大人たちに届けていたと証言しました。こうした大人たち数名の実名を私は把握しています。もちろんここで実名は挙げませんが、そのうち数名はフランクリン隠蔽事件で名前が挙がっています。しかし、記載されているジェフ・ギャノンという名前ですが、実名はジョニー・ゴッシュです。母親のノーリーン・ゴッシュは写真を見てジョニー・ゴッシュだと確信しました。ジョニーは頬の右側に5セント硬貨くらいの大きさの傷跡がありました。そうです、ギャノンにも同じ傷跡があります。

24:06~

ジョニー・ゴッシュには生まれつき左の胸に8インチほどの長さのアザがありましたが、インターネット上のジェフ・ギャノンの写真を見ると、あつたはずのアザを消そうと試みた痕跡が見受けられます。私はこのネットワークに関与していた若者たちの一人に個人的に話しをしたことがあります。数名と話しました。彼は、ジェフ・ギャノンは本当はジョニー・ゴッシュだと請合いました。

さて、12歳だったジョニー・ゴッシュはどのようにして、数週間前に偽物の報

道陣用 ID を使って、はるばるアイオワ州ウエストデモインからホワイトハウスに入り込めたのでしょうか。ジョニーに何が起こったかという、アイオワ州のウエストデモインからスーシティまで連れて来られたのです。3週間農場に閉じ込められ、性的いたずらを受けました。コロラド州の山岳地帯にも連れて行かれ、檻に入れられ、家のようなもの、あるいは小屋の中にも見えますが、そこで性の奴隷として利用されました。大人たちは彼を殺しはしませんでした、生け贄にもしませんでした、しかし、こうした子供たちの多くは悪魔的儀式で生け贄にされました。

25:30~

彼は別の若い男と逃亡しました。二人で車を盗み、そしてジョニーは1997年の夜中の2時30分に母親であるノーリーン・ゴッシュの家をノックし、話しがあると言いました。彼は1人の若い男の子と一緒にいました。ジョニーは中に入ってノーリーンに言いました。「お母さん、ぼくは誘拐されたんだ。CIAが支配していた秘密の軍事施設に幽閉されて、マインドコントロールされ、性の奴隷として利用された」と言いました。そして「今は名乗り出ることはできない。彼らに殺される」と言って出て行きました。ノーリーンは、1997年が息子と話した最後だったと言っています。

それから数年後、20/20のプロデューサーであるバーンズ (Burns) という名前の女性がジョニー・ゴッシュの誘拐とネブラスカ事件に関する小説を執筆することにしました。そこで彼女は私にインタビューを申し出ました。実際、私は彼女と5日間過ごし、私が知っている情報、これは皆さんも入手可能なものですが、すべて話しました。その後、彼女はミネソタ州北部のインディアン保護区にジョニーが隠れているという手掛かりを得ました。彼女は現地に出かけていき彼を見つけましたが、彼は隠れてしまいました。現在、彼はホワイトハウスにいます。彼はマインドコントロールの被害者でした。

MK ウルトラマインドコントロールについてご存じない方のために申し上げますと、これは第二次世界大戦後にドイツの科学者を介して米国に持ち込まれたものです。大戦前から戦時中にかけてナチスが科学者を拘束し、暗殺や凶悪行為をはじめとして自分の思うがままの命令に従うロボットそして人間の開発を行わせました。CIAのマインドコントロールプログラムであるMKウルトラプログラムは、1987年に米国議会の調査対象となりました。議会側から「CIAはこんなことは止めなければならない、君たちは悪者だ」との発言を受けて、CIAは「止め

ますよ」と言いました。しかし、偽ってはいけません。今日、普通に行われています。

マインドコントロールの被害者の中には、バーバラ・ハートウェル (Barbara Hartwell) のような人々もいます。バーバラは私のことを中傷している一人です。私はかなり良い仕事をしたに違いありません。そうでなければ、彼女らがインターネット上で私を批判することはなかったでしょうから。もちろん、私はそのような戯言を気にしていませんが。

28:15~

ネブラスカ事件と MK ウルトラに話を戻すと、このプログラムに関するトレーニングの多くはネブラスカ州オハマにある空軍戦略指令本部であるオフアット空軍基地で行われました。ご存じのとおり、9.11 の発生後、大統領は飛行機でルイジアナ州のどこかへ、それともニューオリンズだったかもしれませんが南下してから、オフアット空軍基地へ向かいました。2001年9月11日の午後のことでした。当日朝の9時30分にはそこでパーティーが開催されましたが、大統領はこの機会を逃し、それを残念がっていました。ちなみに、このパーティーにはウォーレン・バフェット (Warren Buffet) が参加していました。MK ウルトラプログラムが厳重な管理下に置かれていた拠点はオフアット空軍基地だけではなく、ノースカロライナ州のフォート・フラッグでもそうでした。フォート・フラッグは、1970年にマクドナルド医師の家族が殺害された場所です。

ネブラスカ事件について述べますが、1990年代初頭にヨークシャーTVが渡米してきたことをお話ししておきたいと思います。このテレビ局はカメラクルー1名を連れてきており、7ヶ月間滞在してネブラスカ事件に関するドキュメンタリーの撮影を行いました。その後イギリスに戻って、このドキュメンタリー番組を制作し、米国にも配信しました。1994年5月3日の放送予定としてテレビガイドにも掲載されました。

29:42~

米国議会の特定の議員がこのことを知ると、制約的法律を盾に放送業界に圧力をかけました。匿名の議員がビデオテープやドキュメンタリーに対する権利を買い上げ、コピーをすべて処分するように命じました。実は私は偶然そのドキュメンタリーの海賊版を持っていて、皆さんも入手可能です。この海賊版も、これらの書籍も販売しています。関連するレポートもありますので、ご興味のある方にはお渡しします。5つのアイテムすべてをご購入いただくのであれば、5パッ

ページ限定で15%から20%値引きいたします。

さて、6ヵ月ほど前に、よい調査官であれば同じことをするはずですが、私は件のテレビガイドのコピーを入手すると言いました。私はコピーを持っていなかったのです。ジョン・デキャンプは一冊持っていたはずですが、見当たりませんでした。ジョンはいつもそんな感じの人です。よき友人で、偉大な人物です。そんなわけで私は自分で一冊手に入れると言いました。そこでテレビガイド関係者に手紙を送ったところ、該当するテレビガイドのコピー一冊を受け取りました。1994年5月3日の午後10時のディスカバリーチャンネルを探しましたが、掲載されていませんでした。その代わりに、この新しい、再印刷版コピーに掲載されていたのは自然関連番組でした。

私には報道関係者に出し抜かれるつもりはありませんでした。私が入手したのはロサンゼルス・タイムズのTVログでした。これには掲載されていました。『Conspiracy of Silence (沈黙の共謀)』と。私はフィラデルフィアにいる友人に電話して、このTVログをフィラデルフィア・インクアイアラー朝刊紙で確認してもらいました。フィラデルフィア・インクアイアラーにも『Conspiracy of Silence (沈黙の共謀)』が記載されていました。メディアの力です。彼らはテレビガイド全体に変更を加え、再印刷を行いました。

31:40~

これまで米国内で公に放送されたことはありません。今後放送されるかについても疑問です。でもとにかく、皆さんのお手元にお届けすることはできます。

これで、この話が終わったわけではありません。私は引き続き捜査を行っていきますし、引き続きこの事件を担当し、引き続き各方面の関係筋と話をし、新聞記事にして、記録し、情報を発信して参ります。それが私たちが進むべき方向性です。多くのアメリカ人が、裏で何が現実に行っているかに気づいていないのですから。

マクドナルド事件の他に申し上げておきたいと思っていたことは、ジョン F. ケネディ暗殺事件についてです。私はこの件も調べました。当時私はダラスのFBIに所属していて、ダラスの次はロサンゼルスに所属になりました。ジョン F. ケネディ暗殺事件について調べを進めて分かったことは、疑う余地もなく、この事件はCIAとシカゴのマフィア - コーザ・ノストラ (La Cosa Nostra) のボスだったサム・ジアンカーナ (Sam Giancana) とが共謀して襲撃したものでした。

サムは米国議会で証言を行う 3 日前に銃で撃たれて殺害されました、これは計画殺人でした。

33:00~

このことは、過去に起こった同国人によるテロ行為や米国内での他の隠蔽工作についてもっと調査を進めたいとの動機付けとなりました。私は、1941年12月4日に日本が真珠湾を攻撃しようとしていた情報を入手した米国海軍情報部の将校にインタビューしました。日本語の暗号を解読したそうです。そして私に個人的に言ったことは、彼は解読した暗号を上司に手渡したとのことでした。その後、海軍は前線に出ました。真珠湾攻撃の後、彼は議会で証言するよう召喚状を送達されました。上司は彼を呼んで、「心配することはない、召喚には応じるな、いつか、その理由がわかるだろう」と言いました。そこで彼は議会での証言を行いませんでした。ご参考までに、彼は最近他界しました。

このような別の分野の隠蔽工作だけではなく、国の全体像を視野に入れて見ていきましょう。真珠湾攻撃についてです。次はウェイコです。軍隊は破壊工作、襲撃、そして殺人にも加担していました、FBI も、(間) ウェイコの女性たちや子供たちはこれに加担させられました。軍隊と FBI は戦車を使用しました。これは、軍隊が民間人を強制するために使用することを禁じている Posse Comitatus 法に違反することです。しかし軍隊と FBI は巧妙にかかわっています。

興味深い話を 1 つご紹介します。私はウェイコのリサーチを行いました。すでに申し上げたとおり、私は膨大なリサーチを行ってきています。多くの場合、現地に出向くだけでなく、リサーチをします。現場にいたこともあります。退職金の大部分をこうしたことに費やしています。オクラホマシティの件も含めて。オクラホマシティ事件の捜査を間もなく開始する予定で、その次は9.11などの予定です。しかしウェイコの件では、BATF (アルコール、タバコ、火器及び爆発物取締局) の捜査官 4 人が銃撃、殺害されました。ブランチ・ダビディアン (Branch Davidians) (訳注: 前出) のうちの数名は裁判にかけられ、「謀殺」の罪で判決を言い渡され、現在も服役中ですが、おそらく終身刑です。銃殺された 4 名の BATF 捜査官に関する調査で分かったことは、4 名とも頭を打ち抜かれていたということでした。

軍隊に入隊していた人であればお分かりでしょうが、これは狙撃によるものです、間違いありません。銃殺された一人は、銃弾の軌跡が上から下に向かっていて、唇を貫通してから体内に入っていました。おそらくヘリコプターから撃たれ

たと考えられます。興味深いことに、これら4名の男性、BATF捜査官らは、一時期全員がビルクリントン元大統領のボディガードをしていました。これはウェイコでのことです。

ルビー・リッジ (Ruby Ridge)。ランディ・ウィーバー (Randy Weaver) はBATFにはめられました。BATFとは、アルコール、タバコ、火器及び爆発物取締局のことです。ランディはショットガンを購入しましたが、長さが1/4インチと、法で定められる長さよりはるかに短いものでした。BATFはランディを逮捕し、令状を送達しました。ランディが裁判所への出頭を拒んだところ、BATFは部隊を送り込み跡を付けさせました。FBIの射撃の名手の堀内は、ランディの妻が戸口に立っている時に彼女を銃で撃ち殺しました。見事な狙撃だったため、この狙撃手はこのことをよく自慢していました。この事件は、忠義心ある良きアメリカ人を罠にはめて無実の罪で投獄しようと試みた、もう1つの事例です。

37:02~

1993年は、大いなる陰謀が続きます。私は「大いなる陰謀」と呼んでいます。これはワールドトレードセンターでの車両爆発のことを指しています。私は1993年10月28日のニューヨークタイムズ紙を一部持っています。この日の記事には、セイラム (Salem) という名前のFBI情報提供者の裁判に関する報道があります。この男はこの事件のテロリストメンバーだった人物でしたが、テログループから金をもらって、一緒になって爆弾を仕掛け、一緒になって車両爆撃を実行し、1993年2月にワールドトレードセンターを爆破したと証言しました。

セイラムは幸運なことに、テロリストと会った際にボディマイクを装着していました。そのため、言われたことを逐一録音することができました。FBIには知られていないことですが、セイラムがFBIと会った際も彼はボディマイクを身に付けていました。おそらく、それが故に罠にはめられることなく、罪を着せられることなく、刑務所に送られずに済んだのかもしれませんが。そのようなことが、この新聞記事に実際に書かれています。セイラムはFBIの上官に向かって、「私は一緒に爆弾を仕掛けるために金を受け取りました。我々はダミーの爆弾を使う予定なんですよね」とたずねました。FBIの上官は、「いや、我々が使おうとしているのは本物の爆弾だよ」と答えました。

38:34~

私が理解できないことは、なぜ議会や上院の捜査官ら、そしてワシントンDCの上層部が、このような状況において狼狽しなかったのか、ということです。FBI

はあの車両爆撃を前もって知っていたばかりでなく、爆薬の仕込みもしました。なぜ、だれも、あの区域で何の対策も取らなかったのか。なぜCIAに操られた、この国際的児童誘拐連続事件をだれも捜査しないのか。なぜ議員らは「自国の安全を守り、自国をテロリストから守る」という彼らの公言に最大限資することと引き換えに、国民の古くからの権利と市民の自由を剥奪する愛国者法のような法案に投票するのか、私は理解できません。

39:26~

皆さん、ここで重要な話をさせてください。私たちの政府には人がいます、悪党の一団であるかどうかは定かではありませんが、こうした人たちはテロ行為を裏から操っています。政府の人間がテロ行為を裏から操っていると考える理由は、彼らが愛国者法のような法案を可決させることができるからです。そして連邦議会議員や上院議員がこうした馬鹿げた法案 - 私たちが常識を持って発言するところの定義に基づく意味での - 馬鹿げた法案に投票する理由は、こうした議員らの多くが性と薬物によって仕組まれ、はめられてしまっているからです。

では、1995年のオクラホマシティについて見ていきましょう。オクラホマシティには私用で2度旅行したことがあります。そこで調査を行いました。その時の私の報告書の件で、ティモシー・マクベイ (Timothy McVeigh) の被告人弁護士が調査官2名を派遣して私にインタビューを行いました。この調査官らと4時間一緒に過ごし、その時とても多くの情報を得ました。例えば、調査官らの話では、彼らは連邦保安官の立会いのもとオクラホマシティのマラービル (Murrah Building) の跡地を見て回ることは許可されましたが、調査のための証拠収集のために土壌サンプルを採取することは決して許可されなかったということです。彼らの弁護士はステファン・ジョーンズ (Stephen Jones) でした。

私は、このビルが取り壊される予定だと聞きました。だとするとタガントと呼ばれる化学物質を使って爆弾の痕跡調査ができることになります。この話を聞いて、私はジョン・デキャンプに電話して言いました。「ジョン、あのビルの取り壊しをやめさせないと」と。次に私はパット・ケネディー・グループと呼ばれるシカゴの集団に電話しました。このグループはこの種の証拠を調査する専門家集団です。

ジョンはマクベイの弁護士のジョーンズに電話しました。というのは、ジョンはこの件に関与している依頼人の代理人を務めていたからです。ジョーンズは「こ

の書類は私が預かる、ヒアリングを行い、あのビルの取り壊しをやめさせる」と言いました。しかし、次の機会に私たちが耳にしたのは、ビルが取り壊しの最中だということでした。ジョンはジョーンズに電話して「どうなっているんだ」と言いました。しかしジョンは何ら良い回答を得られませんでした。それが証拠です。私は多くの犯罪現場に行ったことがあります、証拠を保存することが極めて重要です。この件は、大がかりな隠蔽だったのです。

マクベイは妹に手紙を書きました。マクベイは特殊部隊にいたことがあります。政府も軍隊も「ばかな、彼は不合格処分になった」といいます。彼は不合格処分を受けていません。彼が妹に宛てた手紙によれば、彼は特殊部隊からスカウトされ、CIAで暗殺者としての訓練を受け、CIAで国際的薬物案件を担当し、こうした訓練や任務のどちらも競争を勝ち抜いて得た立場であったと書かれ、また、CIAのプロドラッグ人員 (pro-drug people) のための任務だったと書かれていたとのことでした。

42:52~

マクベイは、私の意見では、MK ウルトラマインドコントロールの被害者でした。彼はオクラホマとコロラドの刑務所でジョリー・ウエスト (Jolly West) 医師と面会しました。ご参考までに、今の話は秘密にされていました。私は信頼できる人達に電話した中で偶然これを知りました。ジョリー・ウエストは、シドニー・ゴットリーブ (Sidney Gottlieb) とともに CIA の MK ウルトラマインドコントロール任務の最高指揮官の一人でした。なぜジョリー・ウエストのような人物が裁判期間中にマクベイにインタビューをしたのでしょうか、オクラホマだけでなくコロラドでも。なぜなら、彼自身もマインドコントロールの被害者だったからです。一度報道されたことがありました、US ニュース&ワールドレポートだとは思いますが、マクベイは臀部にマイクロチップを埋め込まれていました。報道によると、我が国の軍隊はマイクロチップを使用して兵隊たちの行動を追跡確認していたとのことでした。

43:54~

トラックの中にあつた爆弾は、伝えられるところによると肥料爆弾とのことでした。政府は当初 1,500 ポンドの爆弾だと発表し、次には 2,500 ポンドの爆弾だと発表しました。私の考えでは、最終的に 4,800 ポンドになると思います。トラックの中に置かれていた、この爆弾は建物の半分を破壊しました。4,800 ポンドの肥料爆弾 - 硝酸アンモニア肥料爆弾 - は空気中に消散するため、あのような規模の建物を破壊する能力、可能性はありませんでした。オクラホマシティ

で爆弾が爆発した後、私は友人のマイケル・リコノスチート (Michael Riconosciuto) からの電話を受けました。インターネットで検索しようとメモを取っている人のために、スペルはR-I-C-O-N-O-S-C-I-U-T-O、マイケル・リコノスチートです。マイケルとは1980年代初頭以降、一緒に仕事をしています。最初に出会ったのは1982年でした。彼はCIA捜査官で20年以上任務に当たっていました。一時期FBIへの情報提供者でもありました。

45:02~

彼の父親はカリフォルニア州シリコンバレーのHercules Manufacturing社を所有していました。この会社は電気流体力学的ガス燃料装置という、極秘扱いの爆弾を開発していました。実際の製造は、ソルトレークシティの外れのDyno Nobel社が行っていました。

マイケルは当面の間、今日も刑務所の中にいます。実は昨日彼に話しかけました。というのも、彼はブルックス委員会 (Brooks Committee) を前にして、PROMISソフトウェアに関する、とても興味深い事件について話し始めたからです。PROMISソフトウェアは、あなたと私、アメリカ国民一人一人に関する諜報機関からの情報を、コンピューターを操作することによって表示させるソフトウェアです。司法省はこれを2年間リース契約で使用していました。2年経過後、司法省は代金受取人のビル・ハミルトン (Bill Hamilton) とナンシー・ハミルトン (Nancy Hamilton) 夫妻に1,000万ドル支払うことを拒みました。次に司法省はUPI通信社の元社長のアール・ブライアント (Earl Bryant) を通じてこのコンピューターを持ち去り、世界中に売りさばきました。フランスに売り、イギリス、イスラエル、そしてカナダにも。

46:25~

これらの外国の政府高官は知らないことですが、このコンピューターは実に巧妙にトラップドアが仕込まれていました。このトラップドアは、外国政府が作成した、あらゆる情報を米国政府が秘密裏に検索することを可能にしたものです。PROMISソフトウェアコンピューターに内蔵されたトラップドアを開発したのは、CIA捜査官だったマイケル・リコノスチートでした。連邦議会は1980年代後半に調査を開始し、マイケルを訪ねて「君に証言してほしい」と言いました。しかしマイケルは証言の2週間前に脅迫電話を受け、合衆国司法省の仲間であるヴィドニーク、ピーター・ヴィドニーク (Peter Videnieks) から「証言したら、後悔することになる」と忠告を受けました。しかしマイケルは証言を行い、その数週間後に薬物所持で逮捕され、現在懲役30年の刑に服しています。なぜなら、

合衆国政府の蚊帳の中で操業している、このような不正で犯罪にまみれた企業の不正行為を暴露しようとしたがために。

ここで、マイケルの経歴について少し話をしたいと思います。オクラホマシティの件まで戻りますが、マイケルがどのような人だったか皆さんに知ってもらいたいと思います。彼は、リサイクルセンターを探しながら、その辺の通りを歩いているといった感じの人とは違って、信頼できる人です。

マイケルはオクラホマシティの爆弾が爆発したすぐ後に私に電話してきて、刑務所からの電話だったのですが、「テッド、あれは私の爆弾だよ」と言いました。つまり、Hercules 社が開発したものです。あれは硝酸アンモニア爆弾ではありませんでした。あの爆弾が1982年にテストされたとき、私はたまたま、諜報員グループと一緒にパームストリングスにいて、テスト結果を待っていたところでした。エリア51でのテストです。当初は能力が過小評価されていました、なぜなら技師を2名死に至らしめてしまったほど強力だったからです。強度も過小評価されていました。このバロメトリック爆弾は、私はそう呼んでいるのですが、このバロメトリック爆弾はマイケルによれば、あの車の中に仕込まれていた爆弾であって、肥料爆弾ではないとのことでした。私はこれに関するオクラホマシティ報告書を持っています。そう、調査官としての私の任務は何だったかですか？

まず、私はニュージャージー州のピカティニー・アーセナル陸軍施設に出かけたことがあって、そこで科学関連雑誌を介して入手した契約番号を彼らに提示しました。私の同僚の一人が、この件に関するリサーチを行っていました。私がこの陸軍施設に契約番号を提示したところ、この番号は一般に入手可能なものでしたが、施設関係者が戻ってきて「ここには、そのような契約はありません」と言いました。私の契約番号は確かなものだったのですが。いずれにせよ、このことは私の報告書に記録されています。

49:15~

私はDyno Nobel社にも行きました。製造担当者とは面識がありましたし、彼らは気持ち良く対応してくれました。興味深いことに、マクベイに有罪判決を言い渡した大陪審の面前でDyno Nobel社の専門職員が一人、証言を行っています。

1995年9月、つまりオクラホマシティの事件があった1995年4月19日から5、6ヵ月後のことですが、どこにあったか忘れてしまって、少しお待ちください、

あ、ありました、Fireman's Magazine という雑誌からの記事です。この記事を執筆したのは、この雑誌の編集者です。情報の出所はオクラホマシティ消防署警察署でした。この記事では、私の報告書にも記載がありますが、この記事では、建物の中から爆発しなかった装置 4 つが回収されたとあります。レスキュー隊員が爆発後の建物内に入り込むと死者が出たため、隊員らは救援活動を 5 時間程度中止しました、その一方で、青色のスーツ、スエットスーツのような服を着た男たちが膨大な数の政府の文書ファイルを外に持ち出しました。そうです、私が今お話ししているのは、オクラホマシティ事件は、明らかにマクベイとニコルズ以外の人物による犯行だったということです。次に、ロジャー・ムーア (Roger Moore) についてお話ししますが、最近新聞を読んだ方であればご存じでしょうが、この銃販売人の主張では、自分はアーカンソー州で銃を盗まれて、それらが売りさばかれた時の金がオクラホマシティ爆破事件の資金源として使われたとのことでした。ロジャー・ムーアはこの事件に加担した罪でテリー・ニコルズ (Terry Nichols) から告発されています。

51:11~

ロジャー・ムーアはこれを否定しています。ロジャー・ムーアはオクラホマシティ爆破事件が起こった時、FBI の情報提供者でした。

オクラホマシティ事件の内部調査官から聞いた話では、オクラホマシティ事件に加担していた人物は少なくとも他に 11 人はいました。

それでは、ここまでを振り返ってみましょう。パールハーバー、ウェイコ、ルビー・リッジ、1993 年車両爆撃、1995 年オクラホマシティ、そして最後に 9. 11。申し上げたとおり、マイクは刑務所に入っています。マイクは私のことを「記録の調査官だ」と言いますが、これは私が弁護士のようなものだという意味です。私は定期的に彼に面会に行くべきで、彼を代理して行動しています。9. 11 発生の前の年、具体的には 1 年半前ですが、私はマイケルに面会しようと思いました。彼はペンシルバニア州北部の刑務所にいました。私はフィラデルフィア地区にいました。連邦刑務所局は、彼との面会を許可しませんでした。結局、私がマイケルと話しができたのは 2003 年 1 月でした。西海岸まで飛行機で移動し、彼と 3 日間を過ごしました。マイケルは 9. 11 が発生する前に自分の関係筋から情報を既に得ていて、彼らがこの事件の実行に加わる予定で、ミサイル - 飛行機ミサイルを使う予定であること、飛行機乗っ取りにも関与する予定であること、彼らはアラブのテロリストらを訓練していたこと、そして米国にいるあの人物の身元を知っていることを話してくれました。あの人物というのは、ニュージャージー

ジー州パターソンに住んでいるアラブ人であり、米国におけるアラブ人のテロ活動の主導者だった人物の事です。

53:14~

マイケルがこのような情報を入手していたのはなぜかという、刑務所にいながら、どうやってこの情報を入手したのか不思議だと思っらっしゃいますよね、どうしてかという、私はオサマ・ビン・ラディン、マイケル、国務省代表者と1986年の春に会談したことがありました。このとき、レーガン元大統領、ロナルド・レーガン大統領の側近が私に接触してきて、「アフガニスタンの反逆者を私たちが支援できるかね」と言いました。彼らは当時私たちの友人でした。私はマイケルに電話して「君はどう思うかい」と尋ねました。すると彼が「会って話そう」と言ったので、それで4人目の仲間も加わることとなりました。私たちは当時、それがオサマ・ビン・ラディンだということは知りませんでした。あの時彼はティム・オズモンドと名乗り、トルコのパスポートを使って移動していました。

マイケルが一緒だったため、私は彼に従いました。そして会合の日程調整をして参加しました。しかしマイケルはこういった人たちと一緒に世界中を渡り歩き、アフガニスタンの反逆者に地对空ミサイルを引き渡しました。ソビエトを崩壊させた、そして彼らのヘリコプターの襲撃に使われた、あのミサイルをです。このような経緯があり、マイケルはアラブ世界の内部筋と関係を築き、9.11についても前もって知っていたのです。

54:30~

マイケルは2001年3月20日、乗っ取った航空機をミサイルとして使用するという、この計画をFBIに話しました。そして自分の関係筋、アラブグループ内にいるマイケルの秘密の関係筋の一人をFBIに引き合わせました。するとFBIはこの男を尋問し、起訴すると脅し、強制送還しました。この男は家族とともに姿を消しました。私たちは、彼らは死亡したと思っています。FBIはこの状況調べを行うことを断固として拒みました。

もっとショッキングなことに、偽名を使い偽のパスポートを持っていたこれらの人物、すなわちアラブ人らの本当の名前を、マイケルは知っていました。マイケルは彼らの名前を知っていたのです。マイケルはこうしたアラブ人にその情報を提供できる関係筋と通じていたのです。1990年、いやすみません2001年3月20日に、マイケルはFBI捜査官のキース・カウトリー (Keith Coughtrie) に

言いました。「これらの名前を君に明かすよ、この名前の人物はアラブ人のためにプロジェクト全体の調整を行っている。私は訴追免責が認められ、この人物も認められることを条件に」と。カウトリー氏は9.11の6か月前に、この情報があったにもかかわらず、9.11発生の2日後の13日に戻ってきて、再び刑務所のマイケルの元に出向き、マイケルのことを反政府主義者だの、反FBI主義者だの、売名家だの、国への忠誠心に欠けるなどと非難しました。そんなことがあって、その後マイケルは当然ながら口を閉ざしてしまいました。先に申し上げたとおり、マイケルはいまだに刑務所にいます。しかし、私たちは、私たちFBIはこの情報を持っていました、でも何もしなかったのです。カウトリーは9月13日、FBIは情報を持っていながら何もしなかったことを認めました。

2003年にマイケルを訪ねて以来私は、FBIがマイケルに会ったことを確認することが重要だと感じました。連邦刑務所局は、マイケルに面会者リストを渡して確認させたりすることはないでしょう。そこで私は、上院議員のジョージ・アレン（George Allen）を介して（アレン氏には感謝しています）、マイケルが実際にはFBIと会ったことを裏付けるためのFBI宛ての手紙を書き始めました。文書に残したかったためです。カウトリー捜査官と一緒にいた他の捜査官の身元をたずねる一文も加えました。実に辛い期間でした。1年半掛かりました。そして、マイケルに2001年3月20日に尋問を行ったことをFBIに認めさせる手紙を書き上げました。このFBI情報を私はようやく手に入れました。この情報は私の報告書の中の1つに記載してあります、私のテロリズム報告書に。私の鞆の中に入っています。

57:46~

以上、こういった経緯で現在に至っています。私に残された時間は多くはないと思います。それでも元FBI捜査官として、まだやらなければ、という思いにかられることもあります。私はFBI捜査官としてのあらゆる訓練を受けてきましたので、自分ができることはできる限りやって、できるだけ多くの善良な米国人に、裏で何が行われているかを知ってもらいたいという思いにかられもします。私たちは、米国軍事諜報機関をはじめとし、FBIとCIAが関わっている秘密犯罪企業など、今日もこの国で活発に活動している組織に操られ、仕込まれています。最初の一步から、すべて隠蔽されているのです。彼らはFBI情報提供者を利用しながら人々を罠にはめ、無実の罪を着せているのです。

ご参考までに、彼らは1984年の薬物取引において私に無実の罪を着せようとしていました。これは彼らの思うようには行きませんでした。彼らが私をはめさせよ

うと利用した女性が「あなたにお会いする必要がある」と連絡してきました。私たちは会いました。彼女は筋書きを全部話してくれました。彼女から署名入りの宣言書ももらいました。彼女の名前はパム・フォセット (Pam Fossett) です。私はパムに、「君は、麻薬取締局やモデスト地区の FBI のために仕事をしているんだよ」と言いました。彼女が私に電話をくれたときには、私は彼女にこう言いました、「君は私をはめようとしている人たちと一緒に仕事をしているんだよ」と。もちろん、数回の電話の中で、彼女は常に私に、重罪の知識があることを私が自分でわかっていると認めさせようとしていました。私は認めたことはありませんでした。私はそんなことは知らないと言いました。私は私は実際には重罪に関与していました。私は「パム、いいかい、君はこんな人たちと6ヵ月間も一緒に仕事をしてきたんだ。彼らは君に2000ドルをくれた。彼らは君にFBIのオフィスを自由に使わせてくれた。君は自分専用のコーヒーカップを持っていた。なぜ君はぼくに近づいてきて今そんなことを話すんだい」と聞きました。そうしたやりとりの合間に、私は彼女の助けになればと思ったことを話したり、彼女の14歳になる息子についてちょっとしたアドバイスをしたり、だれでも話すような、相手を気遣うようなことも話したりしました。そして彼女はこう言いました。「テッド、私はある朝、目が覚めて気づいたの、ここ6ヵ月間に話をした人の中で、あなたがただ一人の馬鹿正直者だったってことに。」これはそのまま彼女が言ったことです。

FBI が薬物取引で私をはめようとしたことに加え、私は4件の個別の調査の被害者でもあります。彼らはダラスのデンバーでの詐欺事件でも私に罪を着せようとしていました。つい最近では、率直に言うと、私は追跡調査、執拗な追跡調査の対象になっています。私の車やアパートの部屋に不法侵入されたりもしています。彼らは先月のうちに私に毒ガス攻撃を試みていましたが、私はそれを予期したため回避することができました。しかし彼らは、私のような人たちに本当のことは話してもらいたくないのです。でも私は本当の事を話すということをやっています。そしてそれをやめません。これからも、そうし続けます。

だいたいお話しました。皆さんには1776年まで遡ってから現地点に辿り着いていただきました。共同謀議について1つ1つ確認してきました。ご参考までに、オクラホマシティ爆破事件の後、ナショナル TV でブライアント・ガンベル (Bryant Gumbel) がテリー・ニコルズ (Terry Nichols) の兄のジム・ニコルズ (Jim Nichols) にインタビューしました。私はジム・ニコルズに自分のオクラホマシティ爆破事件のレポートを渡していました。ジムはブライアント・ガンベルに「テッド・ガンダーソンのオクラホマシティ・レポートをもう読みましたか」

とたずねました。するとガンベルは答えました、「いやあ、テッド・ガンダーソンは陰謀論者ですよ」と。皆さんには、私がそうではないことを知っておいてもらいたいです。私は陰謀論者ではありません。私は陰謀現実主義者です。

陰謀は、すぐそこにあります。皆さんがすべきことは、自分のウェブサイトを持つことです。自分のインターネットを入手してください。そして、そこから外に出てみると、そこには誤った情報があふれています。しかし、皆さんは何が本当に信用できて、何が本当に真実なのかを見分けることができます。私はそれをやり終えました。25年かけて過去に遡り、過去を掘り起こしました。私の報告書のどれか1つでも、あるいはこのビデオテープや私の資料のどれかでも買ってくださいの方がいれば、その方には約束していただきたい。コピーを作成して、できるだけ広い範囲に配布してくださると。私たちはアメリカに目を覚まさせる必要があります。

そして、ここでもう一度強調して言わせてください、私は反アメリカ主義者ではありません、私は暴力を信奉しません、私が信じるのは法的手段を通じた変化です。私たちは、今日のアメリカの多くを占めている無関心で、眠れる社会の目を覚まさせる必要があります。目覚めていない社会こそがMKウルトラやCIAにつながっていて、そして悪魔主義につながっているのです。今日のアメリカには、ネブラスカ事件に関わりのある悪魔崇拝者がおよそ400万人います。あと1時間ほどあれば悪魔のカルト集団についてご説明できますが、私の持ち時間はもうそろそろ終わりです。ですが悪魔崇拝について言及させていただければ、異なる3つの情報源による情報では、この国で生け贄になる人は毎年50人から6万人います。悪魔のカルト集団は密かに活動します。この悪魔のカルト集団は、政府内の秘密犯罪企業と共に、私たちの社会の深刻な脅威です。ご静聴ありがとうございました。